

5領域		ガイドライン	要約	定義	具体例
健康生活	健康	身の回りの清潔保持、食事、衣類の着脱、排泄など、日常生活に必要な基本的技能の獲得を支援します。	健康状態の維持・増進	小集団の中で運動や遊びを通じて、心身の健康維持・向上を図ります。運動中の休息や水分補給の重要性も学びながら、体力や免疫力を向上させ、健康的な生活基盤の確立につなげます。	・身近自立だけでなく、休息や水分補給の大切さを自然に自覚できるよう、活動を通して楽しく学ぶ機会を提供します。自ら行動したり挑戦したことを賞賛することで自立心を育み、自身で行動できる喜びや活力につながる支援を行います。 ・活動参加への意欲が育まれるよう、興味あることや得意なことは伸ばし、苦手な活動は指導員が寄り添いスモールステップで進めていきます。不安がある場合は寄り添い、個別の声掛けで負担を軽減します。繰り返しの練習を通して自信を育む支援を行います。
	生活		生活習慣の獲得・形成	日常生活動作を自身の意思で行えるよう支援します。準備や片付け、お手伝いなどの生活習慣を身につけることで、自信と自立心を育み、自己管理能力の向上を目指します。自立を促す環境を整え、自己効力感を高めます。	・KIZUNAの環境や活動に慣れていけるように、指導員や友達と安心して楽しく運動する経験を積み重ねていきます。お手伝いなどの役割体験や達成体験を重ね、自身の行動が周囲に認められている実感を得ることで、自尊心や自己効力感を育みます。 ・KIZUNAの活動ルーティンや身支度が定着しやすいよう、視覚支援（絵カード、視線誘導、模倣）などで補いながらサポートしていきます。お子さんのペースで無理なく取り組めるよう、分かりやすく促します。
認知行動	認知	自己の理解と行動の調整、遊びを通じた社会性の発達、仲間づくりと集団への参加など、認知機能や行動面の発達を支援します。	遊びを通じた認知発達の促進 物、色、形などの概念の獲得・形成	運動・遊びを通じて、色や形、数、ルール遊びなどの理解を深めます。楽しい活動を取り入れて好奇心を引き出しながら、問題解決能力を養うための基盤を作ります。注意・集中力を高めながら、新奇課題への挑戦など思考力や認知的柔軟性を育みます。	・小集団の中で、ルールに沿って参加する経験を積み重ねます。取り組むべき内容を分かりやすく伝えながら、一斉指示に応じる経験や目的・意図に沿って参加する場面を練習していきます。目的となる対象の色や形、数、ルールを楽しみながら覚えていけるような活動を展開します。 ・2～3つの指示を理解・実行できることを目指します。まずは、1つの指示を確実に理解し実行する力とその定着を図っていきます。指示や説明を聞く力を養うために、声掛けに加えて手本を示したり視覚的に記憶する方法も取り入れながら、複数の指示の記憶と実行を支援します。
	行動		適切な行動の習得・形成	小集団での運動や遊びを通じて、行動面の調整力を育みます。順番待ちや指示に従う力、適切な行動を選択する力を養い、感情や衝動のコントロールを学びます。社会的ルールを身につけ社会的適応力を育みます。	・お話を最後まで聞いたり、自分の番を待つことができるようになります。指導員の話途中で話し出したり大きな声が出る際は、いつまで待つのか見通しが持てる環境の提供や個別の声掛けをしてサポートします。待てたときは賞賛し、順番待ちができるよう練習していきます。 ・活動の切り替え時に気持ちが切り替えられるよう、「ピピと鳴ったらおしまい」「○回までやるよ」など事前に具体的な提示を行い、一斉指示でも自立的に切り替えができることを目指します。不安で行動移行できないときは、戸惑いや抵抗が軽減できるよう、具体的な声掛けや視覚的支援で見通しが持てるよう支援します。

5領域		ガイドライン	要約	定義	具体例
運動 感覚	運動	運動機能や感覚機能の発達を促進し、適切な運動遊びや感覚遊びを通じて、身体的な発達を支援します。	運動機能・動作の向上 補助的手段の活用	走る、跳ぶ、投げるなどの粗大運動を段階的に習得し、全身の協調性やバランス感覚を高めます。体を動かす楽しさの体験や挑戦する意欲、社会的な関わりを自然に獲得できる環境を提供します。体幹や手先の器用さを養うことで、集中力や持久力も伸ばし、成功体験を積み重ねて自信を育てます。	・手と足をバラバラに動かす協調動作で、身体の協調性や脳の働きを促す活動を行います。動物模倣や片足ケンケン、静かに走ったり大股で歩いたり、身体のとこが伸びているのかを意識して、多様な活動でボディイメージを獲得します。全身運動により、生活動作の向上につなげていきます。 ・体幹を育てる運動を中心にさまざまな粗大運動を通して、身体の使い方の幅を広げます。挑戦する意欲を引き出しながら、自分のペースで達成感を得られるよう支援します。楽しい活動のなかに力強さやスピード調整の機会を設け、運動機能の向上や生活動作の安定性を目指します。
	感覚	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	感覚の総合的な向上・活用 象徴遊びを通じた社会性の発達	視覚や聴覚、触覚、運動感覚（前庭覚、固有覚）など、感覚統合を促進するさまざまな活動に取り組み、感覚調整能力を育てます。個々の発達段階に合わせた環境設定や手本の提示を行い、楽しみながら運動能力を向上させます。	・ランやサーキット運動などと動物模倣や綱引きなどで体幹強化やボディイメージを向上させ、全身の運動機能（前庭感覚・固有覚）につながる感覚機能を高めます。身体の使い方（感覚）がわかることで、姿勢保持や力の調整能力につなげていきます。 ・感覚統合を意識した活動で、身体の動きや感覚のコントロールを促進します。楽しい活動で力加減やスピード調整を体得しボディイメージを強化します。運動だけでなく見立て遊びやごっこ遊びも取り入れ、感覚機能を高める支援で、落ち着きと自己調整能力の向上を図ります。
言語 コミュニケーション	言語	言語の受容と表出、言語の形成と活用、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得、	言語の受容・表出 言語の形成と活用	運動や遊びを通じて、言葉を使った表現力を育てます。自分の気持ちや考えを言葉や行動で表現する力を養うことで、適切な場面での自己表現スキルの向上とともに自己肯定感を高めることにつながります。	・幾つかの発信方法を学び、表現の練習を行います。要求時にタッチやトントンする動作を用い、楽しい反応を経験します。そこに「ちょうだい」などの音をリズムよく加え、模倣を通して発語練習を進めます。また、指差しや動作表現も取り入れ、言葉と動作が結びついて表現しやすくなるよう支援します。 ・安心して遊べる環境のなかで、日常生活の要求語（ちょうだい、とって、あけてなど）の理解と発信を動作を交えて支援します。好きな遊びで、興味・感心を引き出ししながら、自発的な言葉の発信を促します。自然な形でインプットとアウトプットを繰り返し、伝える力を育みます。

5領域		ガイドライン	要約	定義	具体例
言語 コミュニケーション	コミュニケーション	状況に応じたコミュニケーションなど、言語やコミュニケーション能力の発達を支援します。	コミュニケーションの基礎的能力の向上 コミュニケーション手段の選択と活用	他者とのやり取りを楽しみながら、気持ちや考えを伝える社会的スキルを身につけます。言語的・非言語的対話を楽しむ機会を増やしながらか自己表現の基礎を作り、集団内での円滑な関係を築けるよう支援します。	・絵カードや興味のある道具を使い、どちらが良いか選択肢に応答してもらいます。遊びながら伝わる喜びを経験し、気持ちが高まる時にはお子さんの気持ちを受け止め、代弁しながらできることを増やします。できたときには賞賛し、活動の定着を促します。 ・他児との関わり合いで、自分の気持ちや考えを発信したり、相手の意見を聞く練習をします。感情が高まったときは落ち着ける環境を提供し、会話のタイミングなどのコツを掴めるよう、指導員が見本を示したり仲立ちして良好な意思疎通を経験します。
		アタッチメント（愛着）の形成と安定、遊びを通じた社会性の発達、自己の理解と行動の調整、仲間づくりと集団への参加など、人間関係や社会性の発達を支援します。	信頼できる他者との関わりと安定化 自己理解と行動調整 仲間づくりと集団活動への参加	活動を通じて、他者との協力や助け合いの気持ちを促進し、他者との関わりを楽しめる経験を積みます。共感力やコミュニケーション能力、社会性を育みながら、安心して他者を信じる力を養います。 順番を待つ、指示を遂行する、ルールを遵守するなど、社会的スキルを学びます。集団内で適切に振る舞う力を育て、他者との調和を大切にす姿勢を支援します。また、社会的役割の理解を深めることで協調性が育ち自尊心も育まれます。	・指導員との信頼関係を構築するために、一緒に「高い高い」「こちょこちょ遊び」「ギッタンバッコン」などのふれあい遊びで楽しんで安心感が得られるようにします。指導員は共感的な態度を意識し、お子さんの自己表現や関わりの意欲を支援します。 ・不全感（自分の気持ちや考えが十分に伝わっていない感覚）が募らないよう、得意なことは伸ばし、苦手なことはスモールステップで進めていきます。自信をもって活動できるよう、良い面や成功体験をが得られる場作りと関わりを中心に支援します。 ・ルールがあることで、より活動が楽しめる機会を提供します。説明を静かに聞くことや順番待ち、挙手での発言が達成体験となるように積み重ね、心地よい集団参加を経験していきます。視覚刺激への配慮として手本提示や環境調整を行い、活動全体を段階的に示しながら、安心して自信をもって取り組めるよう支援します。 ・指導員や友だちとの距離が近い際は、適切な距離感を具体的に示し、日常生活で人との距離感を意識できるよう促します。必要に応じて適切な関わり方を分かりやすく示し修正をしていきます。就学を見据え、他者とのコミュニケーションの取り方を意識できるよう支援します。